

『はじめての修学旅行』

〈原作〉

『——子どもの権利条約童話——
月と太陽と子どもたち』(原子修
著)より

〈脚色〉

原子 修

《第一場》

(一五〇)

暗転
音楽

少女1

少年1

少女2

全員

少年2

修 原 子

少女3

少年3

少女4

少年4

少女5

少年5

少女6

全員

わたしたちは おなじ地球をふるさとして この世に生まれできました

世界中の子どもたちは ひとりのこらず みんな 兄弟姉妹です

でも 世界のいたるところで 一日に三万数千人もの子どもたちが 食べものの不足や病気や戦争などの犠牲になつて死んでいきます

なんて悲しいことでしょう

そのような 不幸な子どもたちをすくうための 世界のくにぐにの約束ごととしてとりきめられたのが 子どもの権利条約です

その中の 第二八条は 教育についてです

地球上のすべての子どもたちは 教育をうける権利をもっているはずなのに 貧しかったり 女の子だという理由だけで 学校にいけない仲間がたくさんいるのです

今日 これからみていただくのは 子どもの権利条約の第二八条の精神を わかりやすい劇にしたものです
さいごまで 静かにごらんください

ブータンのウゲン君と……

中国のランちゃんと……

フィリピンのマリルーズちゃんの……

はじめての 修学旅行……

《第二場》

キラッキラーンの音楽

太陽 金いろの冠^{かんむり} 金いろの衣装^{いしやう}で 空にあらわれる

ワーツという 子どもたちの大歓声^{かんせい}

ナレーター

その日 ヒマラヤ山脈のまうえにさしかかった太陽は ブータンの 高原の一角からたちのぼってくる 子どもたちの歓声^{かんせい}に おもわず 耳をそばだてました
みんな とつてもうれしそうです おもわず 金いろのまなざしを 山あいの小さな学校にむけた太陽は 木づくりの教室の窓から 中をのぞきこみました

この間に 上手の段をゆつくりのぼって 貧しい身なりのウゲン君が つかれ果て 這いずるように のぼってくる

ナレーター

おや 子どもたちが プラスチックの透明^{とうめい}な窓に 頬^ほつぺたをくつつけて 口々^{くく}によるこびの声をあげています
そうだったのです きとうまでは 寒い風が吹きこまないようにと 板をうちつけていた窓が やつと

きとおったプラスチックに変えられたのです
もう どんなに冷たい風が吹く冬の朝も はげしい雨が吹きつける夏の昼さがりだって 板の窓のうすぐら

い教室で勉強する必要はないのです
ああ 今日^{けふ}は なんて よい日なのでしょう

その間に やつとステージに立ったウゲン君のおでこに 太陽の光が キラキラあたる

太陽

よかったねえ ウゲン君

ウゲン

(大きくうなづき)うん 家から学校までは 片道二時間の とってもつらい山道だけど でも ぼく けつして休まずに がんばってみせるよ

プラスチックの窓を贈ってくれた 世界中の とっても親切な人たち ほんとうにありがとう!

下手の段を 鋤で畠を耕す仕草のラン ゆつくり のぼってくる

ナレーター

そのとき 太陽は ヒマラヤ山脈のずっと東の方 中国のちいさな村から だれかが話しかけてきたように 思つて 目をそちらにむけたのです。

ラン

(階段をのぼりながら 太陽に) お陽さま お陽さま わたしは 学校にいきたくつて たまらないのです でも 家が貧しいうえ わたしのお手伝いなしには 畑も水田もやっていけないのです そして みんなは 言うのです

男たちの声

ラン! おまえは 女の子だろう いつか お嫁さんになって 家をでていってしまうのだろう そんな子は 学校になんか いかなくなつていい!

さあ はたらけ! はたらけ!

ラン

(泣いて) ああ お陽さま どうしたら学校にいけるようになるの?

キランキラーンの音楽

中央の段を 教科書を手にしたマリルーズ ゆつくり のぼってくる

太陽

おや フィリピンの山奥に住むマリルーズちゃん こんにちは 教科書をもって どこへいくの?

(やつと舞台に立ち 額の汗をふいて) こんにちは お陽さま わたし

マリルーズ

これから移動教室に行くところなの

太陽

移動教室?

マリルーズ

わたしたちの村には 学校がないの それで時々 遠くのまちから 先生がやってきて 移動教室がひらか

ナレーター

れるの

なんていじらしいランちゃん なんてけなげなマリルーズちゃん そして なんて一生けんめいなウゲン君

……

すっかり感心した太陽は ご褒美に 三人を だれもいっただことのない すばらしい修学旅行に連れて行ってあげよう……と 決心したのです

キラッキラーンの音楽 大きく鳴りひびく

太陽から まばゆい光ふりそそぐ

三人 思わず両手で目をふさぐ

ナレーター

太陽の 光の指が 三人の^{まぶた}瞼に チカッと触れました

三人が ぱちつと目をとじたその一瞬間を 太陽は 何億倍もの時間にひきのばして さっと 三人を太陽系遊覧の修学旅行バスに乗せてしまったのです

キラッキラーンの音楽鳴り

暗転

《第三場》

楽しい音楽

明転

光りかがやくバスに 三人^す坐っている
運転台には金いろの髪^{かみ}のドライバー

ラン

金いろの髪かみのドライバー

三人

金いろの髪かみのドライバー

(あたりに触れ うれしそうに叫び) わあ このバス 全部 光でできているわ
 (ハンドルを握り) 皆さん こんにちは
 (声をそろえて元気よく) こんにちは
 (キイを回し ブルルーンと始動音をたて ギギギギーっとギヤを入れ)
 さあ 太陽系遊覧修学旅行バスの出発!

クラクションの音 エンジンの音 走りだす音

ウゲン

金いろの光ふりしきる

金いろの鈴すずをふるような音楽

金いろの長い髪かみの 金いろの長い衣ころもをまとった 金いろの女 ゆっくり進む

金いろの髪かみの女(金星)

(歌う) あげぼののころは
 金いろ
 たそがれのころは
 金いろ
 それをさがして
 空を見上げるひとの
 ころは
 金いろ

金いろの鈴すずの音楽をのこして 金星去る

ラン

(下手を見て) 金いろの髪 金いろの目 金いろの衣の あのひとつは……

三人

金いろの髪の毛のドライバー

マリルーズ

金いろの髪の毛のドライバー

ウゲン

ラン

突然のクラクション 急ブレーキの音

ドライバー 大きくハンドルを切る

三人 大きくゆれる

水いろの博士帽をかぶった男 水いろの眼鏡 水いろのひげ 水いろのガウン姿で バスの前方にとびだし 危なく衝突しそうになり からくもかわす

水いろの博士帽の男(水星)

マリルーズ

水いろの博士帽の男(水星)

ウゲン

水いろの博士帽の男(水星)

だれ?

金星だよ

えっ 星って ひとなの?

そう 夜明けや夕暮れの空にあらわれては 君たちに ほんとうの黄金のありかを 教えているんだよ ほんとうの黄金?

それは なに?

(大げさによるけ) おととととのおつとせい こいつはたまげた

バスをだっこするところだった ひやひやひやひや (ひげを馬鹿丁寧になでる)

(笑って) 大丈夫? 水いろのおじさん

(気取って立ち) えっへん これこのとおり なんともない

(突然ギクンと腰を曲げ) あっ 痛たったったーの きつくらせんきかな?

(腰をぎくんと戻し) おっほーん これこのとおり もおー(牛のようになき) なんでもない (笑って) おじさん そのルーペで なにをしらべているの?

(大きなルーペをかざし) えっへーん わたしは宇宙大学太陽系学部教授 水いろの知恵を研究する博士です おっほーん (ひげをしごく)

ラン

水いろの博士帽の男(水星)

(笑い) 水いろの知恵って なーに？

(ルーペでランの顔をのぞき) 水のようにすきとおった言葉はどこを流れている？

(ルーペでマリルーズの顔をのぞき) 水のように澄みきった考えは どこを流れている？

(ルーペでウゲンの顔をのぞき) 水のように明るいい知恵は どこを流れている？

(ルーペをかざしたまま 腰をかかめ 後ろ向きに下手に去る)

マリルーズ

(下手にむかって叫ぶ) 水のようにすきとおった知恵って

三人

(下手に叫ぶ) なーに

にわかにエンジン音たかまる。

金いろの髪の毛のドライバー

今のは 水星のおじさんだよ(ハンドルを大きくまわし) さあ バスがUターンするぞ しっかり つかまってるんだよ

キイキイキイと車輪のきしる音

ウゲン

(前のシートにつかまって) わあ もと来た闇のなかを すごい速さで もどりはじめたぞ

ラン

いったい どこに行くの？

エンジン音 やつと静かになる

三人 ほつと胸をなでおろし 顔を見合わせて につこり笑う

金いろの髪の毛のドライバー

(ふりむき 笑って) さあ もう大丈夫 ところで 太陽系には いくつの 大きな惑星があったかな？

ウゲン

きつと 九つだ と思うよ

金いろの髪の毛のドライバー

その通り じゃあ その九つの星は 太陽を中心に どんな順番にならんでいるのかな

マリルーズ

たしか 水 金地 火 木 土 天 海 冥の順番だとおもうわ

金いろの髪の毛のドライバー

そう 水星 金星 地球 火星 木星 土星 天王星 海王星 冥王星の順番だね

ラン

金いろの髪 드라이バー

ウゲン

マリルーズ

金いろの髪ドライバー

三人

火いろの光

赤い男（火星）

（手をうってよろこび）わかったわ それで このバス まず地球から出発して 金星 水星をまわり U
ターンして 今は火星にむかっている というわけなのね

（ハンドルから手をはなし 拍手して）みんな よくできました（バスぐらりとゆれる）おっと 危ない つ
いハンドルから手をはなしてしまったわい（ハンドルをにぎり）三人とも 大変よく勉強したので ごほう
びに おやつの時間としよう さあ 前のシートの背のボタンをぐっと押ししてごらん

（ボタンを押す仕組で）わあ テーブルが ほんと とびだしてきたあ

（ボタンを押し）わあ テーブルの上は 生まれてはじめてみるご馳走で いっぱいだわ

（笑って）さあ たんと おあがり

いただきまーす（三人 楽しい音楽にあわせて 食べたり飲んだりする仕草）

（上手から まっかな顔とまっかな服であらわれ 両手で二羽の小鳥をつかまえようと けんめいに歌い踊
る）

自由とは

つかもうとするほど

ひらりと逃げる

小鳥です

ほら

右手が

つかもうとするほど

するりとはげる

自由の小鳥

左手が

つかもうとするほど

ひらりとにげる

自由の小鳥

赤い光と音楽 赤い男の歌と踊りにあわせて 楽しくはずむ

赤い男（火星）
（三人に手をふり）ほんとうの自由って どこにあるのだろう

（下手に消えながら）じゃあ さようならー

ラン
ねえ 金いろの髪の毛のドライバーさん 今のひと ほんとうは火星なんでしょう

金いろの髪の毛のドライバー
そのとおりでよ

ウゲン
でも ほんとうの自由って いったい

三人
どこにあるのだろう

暗転

たくさんの光 バスのまわりで 蛍のように点滅する

マリルーズ
わあ きれいだわあ

ラン
蛍のように ついたり消えたりしているわ

金いろの髪の毛のドライバー
火星と木星のあいだの草むらをとぶ むすうの 風の子どもたちなんだよ

ざあざあという森の葉ずれの音

明転

しま模様しもうらの男おとこ（木星）

ウゲン

しま模様しもうらの男おとこ（木星）

ウゲン

しま模様しもうらの男おとこ（木星）

鈴すずをふるような音

美しい環わの冠かんむりをかぶった女

（土星）

マリルーズ

美しい環わの冠かんむりをかぶった女

（土星）

マリルーズ

美しい環わの冠かんむりをかぶった女

（土星）

ハーブをかき鳴らすような音

葷すふれいろの衣いをまとった女

—（五人の星の子どもをだいてあらわれ）

（色とりどりの しま模様の衣をまとった男 一二のちいさな星の環をくるくる回しながら 上手からあら

われ）やあ 修学旅行のみなさん こんにちは

こんにちは あなたは 二人のかわいい衛星えいせいといっしょにくらす 木星さんでしょう？

よく わかったねえ ウゲン君

えっ どうしてほくのこと？

いつも 村の森のはずれで 学校の教室の窓が 一刻も早く 明るいプラスチックにかかりますようにって 夜空にむかって祈っていただろう

（土いろの衣をまとい 一一のちいさな星の環をくるくる回しながら 上手からあらわれ）やあ 太陽系遊覧たいようけいゆうらん

修学旅行のみなさん こんにちは

こんにちは きっと あなた 一人のちいさな衛星えいせいと仲よしの 土星さんでしょう？

あなた 賢いかしこのね マリルーズちゃん

あれっ どうして わたしのこと？

いつも 丘の上で 村に早く学校ができますようにって わたしたちをお願いしていたじゃあないの

(天王星)

ラン
董すみれいろの衣をまとった女

(天王星)

はじめての修学旅行のみなさん こんにちは
あつ 五人のちいさな衛星えいせいの子どもたちをかわいがっている 天王星さん
そして あなたは学校に行きたくつてたまらない ランちゃんね

シンバルを鳴らすような音

エメラルド色の衣をまとつ

こんにちは 地球からきたみなさん

た男 (海王星)

三人

こんにちは 海王星さん (握手あくしゅする)

バスーンを吹き鳴らすような音楽

長いひげの男 (冥王星)

三人

こんにちは よい子たち
こんにちは 冥王星さん (握手あくしゅする)

楽しい音楽鳴りわたる

金いろの髪かみのドライバー

三人

さあ みんなで 太陽系のはずれまできたお祝いをしようよ
(おどりあがり 手を叩たたき) わあーっ

ウゲン

マリルーズ

みんなでお陽さま一家は キーラキラを歌って踊ろうよ
太陽系のわたしたちが みんな お陽さを中心なつかに 家族同志けいぞうしとして仲良なかよくくらししている歌を 歌って踊り

ましようよ

金いろの髪かみの女 (金星)

三人

(あわただしく走りこみ) 待って！ わたしも仲間に入れてよ
(手を叩たたき) わあ 金星さんだあ！

金いろの髪かみのドライバー

全員 歌うたい踊まわる 光

— (指揮棒しきぼうをもって立ちあがり) さあ 華かれいに点滅てんめつ

会場かいじやうのみなさんも いっしょに 歌うたって踊まわりましよう

お陽ひさま一家は

キーラキラ

金いろの光を

わかちあい

ひとりのこらず

キーラキラ キーラキラ

お陽ひさま一家は

キーラキラ

金いろのおしえを

まなびあい

みんなかしこく

キーラキラ キーラキラ

溶暗ようあん

しま模様の男おとこ (木星)

美しい環わの冠かんむりをかぶった女

(土星)

董すみれいろの衣ころもをまとった女

(三人に手をふって) さようなら

緑きぬの森を大切にしていくなだよ (去る)

(三人に手をふって) さようなら

大地ちがひをよごさないでいくなだよ (去る)

(三人に手をふって) さようなら

澄すみきった大気たいきを守まもっていくなだよ (去る)

(天王星)

エメラルド色の衣をまとつ

た男(海王星)

長いひげの男(冥王星)

金いろの髪のパライバー

クラクションの音 発車音

キキーつとタイヤのきしるUターンの音

ラン

バスの走る音

暗転

《第四場》

キラッキランの音楽 大きく鳴りひびく

空の太陽 大きくゆれる

まばゆい光

ウゲン

マリルーズ

ラン

(三人に手をふって) さようなら 海は すべての命のふるさとだ ということをわすれずにいくなだよ(去る)

(三人に手をふって) さようなら どんなにつらいことがあっても お陽さま一家の家族だということを思い出して しっかり生きていくなだよ(去る)

(ブルルーンと大きな始動音をたて ギギギギーつとギアを入れ) さあ Uターンして 地球にもどりますよ

— ねえ 金いろの髪のパライバーさん やっぱり あなたは お陽さまだったのですね

(上手の段のあたりに立って 太陽を見上げ) お陽さま

(中央の段のあたりに 教科書をもって立ち 太陽を見上げ) お陽さま

(下手の段のあたりに 鞆をもって立ち 太陽を見上げて) お陽さま

三人

— はじめての修学旅行 どうも ありがとう

空の太陽 ますます大きくゆれ

キラッキラーンの音楽たかまり

金いろの光 ふりしきって

— 幕 —

原 子 修

火 星 の 歌 〈 赤 い 男 の 歌 〉

作詞 原子 修

作曲 生田原町立安国小学校5年生担当教師と児童

じゆとはつかもとするほど ひら

りとにげる ことりです

ほらみぎてがつかもとするほ

どするりとにげるじゆのこと

り ひ だ り て が つ か も 一 と す る ほ

The first line of music consists of a vocal line on a treble clef staff and a piano accompaniment on a bass clef staff. The vocal line begins with a dotted quarter note 'り' followed by a half note 'ひ', then a quarter note 'だ', a quarter note 'り', a quarter note 'て', a quarter note 'が', a quarter note 'つ', a quarter note 'か', a quarter note 'も', a quarter note '一', a quarter note 'と', a quarter note 'す', a quarter note 'る', and a quarter note 'ほ'. The piano accompaniment features a steady bass line with chords in the right hand.

ど ひ ら り と に げ ー る じ ゅ の こ と 一

The second line of music continues the vocal line and piano accompaniment. The vocal line starts with a quarter note 'ど', a quarter note 'ひ', a quarter note 'ら', a quarter note 'り', a quarter note 'と', a quarter note 'に', a quarter note 'げ', a quarter note 'ー', a quarter note 'る', a quarter note 'じ', a quarter note 'ょ', a quarter note 'の', a quarter note 'こ', a quarter note 'と', and a quarter note '一'. The piano accompaniment continues with a similar rhythmic pattern.

り

The third line of music shows the vocal line starting with a dotted quarter note 'り' followed by a half note. The piano accompaniment continues with a steady bass line and chords. The rest of the line is empty.

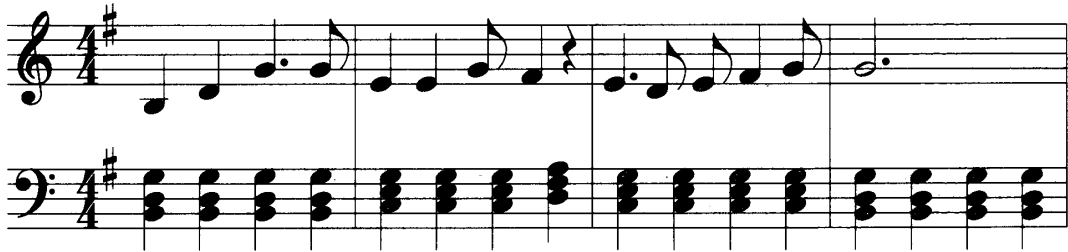
Two sets of empty musical staves, one for the vocal line (treble clef) and one for the piano accompaniment (bass clef).

原 子 修

お 陽 さ ま 一 家 は キ ー ラ キ ラ

作 詞 原 子 修

作 曲 生 田 原 町 立 安 国 小 学 校 5 年 生 担 当 教 師 と 児 童



金星の歌〈金色の女の歌〉

作詞 原子 修

作曲 生田原町立安国小学校5年生担当教師と児童

あ げ ぼ の の こ こ ろ は き ー ん い ろ た

そ が れ の こ こ ろ は き ー ん い ろ そ

れ を さ が し て そ ら を み あ げ る

ひ と の こ こ ろ は き ん い ろ